

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

THIS PAGE BLANK (USPTO)

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 06274514 A

(43) Date of publication of application: 30 . 09 . 94

(51) Int. Cl

G06F 15/22

G06F 15/20

(21) Application number: 05082397

(71) Applicant: FUJI XEROX CO LTD

(22) Date of filing: 18 . 03 . 93

(72) Inventor: HIROSE YOICHI

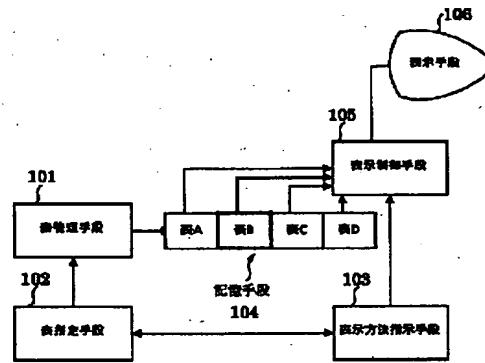
(54) TABLE CALCULATING DEVICE

(57) Abstract:

PURPOSE: To provide a table calculating device with improved interactivity for smoothly performing a series of operations by managing plural tables altogether and displaying them just like a three-dimensional table.

CONSTITUTION: This table calculating device displays the table provided with plural squares determined by rows and columns and performs table calculation based on data inputted to the squares. Table selecting means (101, 102, 103) in the table calculating device manage plural relating table data and select the specified desired data and the table data relating to the table data from the plural table data. Also, a display control means (105) in the table calculating device performs control for performing three-dimensional, display by relating and synthesizing the rows or the columns of the remaining plural tables and at least a part of the desired table based on the selected result by the table selecting means (101, 102, 103).

COPYRIGHT: (C)1994,JPO&Japio



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-274514

(43)公開日 平成6年(1994)9月30日

(51)Int.Cl.⁵
G 0 6 F 15/22
15/20

識別記号
3 1 0 8724-5L
5 4 8 E 7315-5L

F I

技術表示箇所

(21)出願番号 特願平5-82397

(22)出願日 平成5年(1993)3月18日

審査請求 未請求 請求項の数1 FD (全11頁)

(71)出願人 000005496

富士ゼロックス株式会社

東京都港区赤坂三丁目3番5号

(72)発明者 廣瀬 陽一

神奈川県川崎市高津区坂戸3丁目2番1号

K S P R & D ビジネスパークビル 富士
ゼロックス株式会社内

(74)代理人 弁理士 加藤 勝介 (外3名)

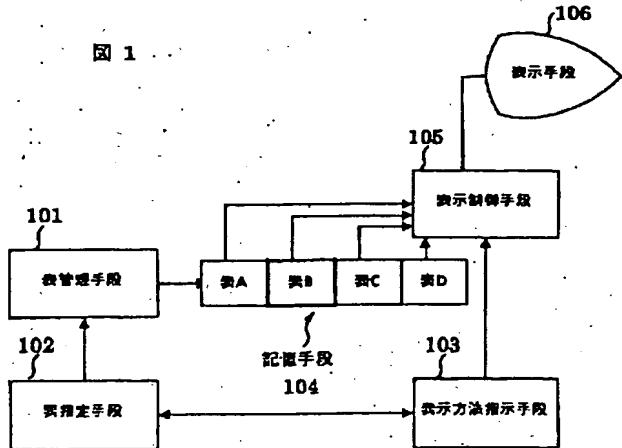
(54)【発明の名称】 表計算装置

(57)【要約】

【目的】 複数の表を一括管理し、あたかも一つの三次元からなる表のように表示することにより、一連の操作を円滑に行う対話性に優れた表計算装置。

【構成】 表計算装置は、行と列で定められる複数の枠目を持つ表を表示画面上に表示し、前記枠目に入力されたデータに基づいて、表計算を行なう。前記表計算装置における表選択手段(図1の101、102、103)は、関連する複数の表データを管理し、該複数の表データから指定された所望のデータと該表データと関連する表データとを選択する。また、表計算装置における表示制御手段(図1の105)は、前記表選択手段(101、102、103)による選択結果に基づいて、所望の表の少なくとも一部と残された複数の表の行または列とを関連させて合成することにより三次元表示をするための制御を行なう。

図1



【特許請求の範囲】

【請求項1】 行と列で定められる複数の枠目を持つ表を表示画面上に表示し、前記枠目に入力されたデータに基づいて、表計算を行なう表計算装置において、関連する複数の表データを管理し、該複数の表データから指定された所望の表データと、該表データと関連する表データとを選択する表選択手段と、前記表選択手段による選択結果に基づいて、所望の表の少なくとも一部と残された複数の表の行または列とを関連させて合成することにより三次元表示するための制御を行なう表示制御手段と、から構成されることを特徴とする表計算装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、任意の表、および表中の行または列に注目して表示することができる対話型の表計算装置に関し、特に関連する複数の表を三次元表示する表計算装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 対話型データシステムとは、データを記憶し、必要な処理を行う中央処理装置、処理結果を利用者に表示する表示画面、利用者がシステムへの入力を行うキーボードならびにマウス、必要に応じてデータのハードコピーを出力する印刷装置、データを保存する外部記憶装置からなり、利用者のシステムに対する指示や、システムからの質問に対する利用者の解答が瞬時にデータに反映し利用者にフィードバックされ、この過程を繰り返すことにより利用者の適用業務を解決することを目的とするものである。

【0003】 表計算装置は、複数の縦横二次元の行および列からなる表を介して利用者とシステムとの対話をを行う対話型データシステムで、近年市販されているパソコン・コンピュータやワークステーションにおいて多く見られる。図13は一般的な表計算装置の表示画面を示すものである。図13に示された表計算装置の表示画面は、複数の行1301と、複数の列1302と、一つのコマンド入力部1306とから構成されている。そして、この表は、たとえば1ないし5までの行番号1303と、1ないし4までの列番号1304とから識別される多くの枠目1305を持つ。コマンド入力部1306には、表や枠目の値を編集、複写、移動、保存、属性、幅等を入力する部分1309と、選択された枠目を表示する部分1307と、選択されている枠目の値を表示する部分1308とがある。

【0004】 たとえば、図13において、利用者が第3列第2行の枠目1305を選択し、この枠目に「25」という値が入力されていることを示しているまた、図13に示された表は、他の枠目の値を参照して、その値を間接的に決定する手段である式も入力することができる。このような式が設定されている場合、利用者は、式

の参照している枠目の値を変更すると、システムが自動的に式の値を再計算・表示し、表のデータ関係を常に静的に保つような仕組みになっている。図13に示された表の一つの枠目は、その枠目の値を、枠目が属する列と行の幅からなる矩形領域に設定された属性（たとえば、右づめ、%表示）で表示される。

【0005】 また、従来の表処理装置は、たとえば特公平3-64901号公報に示されているように、表計算の計算式を設定した後、列の挿入や削除、移動等の変更が行なわれた場合、その構成内容の変更に対して計算式の記憶位置を制御し、表計算を自動的に修正している。さらに、従来の他の表処理装置は、たとえば特開昭63-52181号公報に示されているように、各分割画面に表示された異なる表で独立してスクロール操作を行なうことができ、一方のカーソルと他方のカーソルとを連動させ、相互に関連のある項目を自動的にスクロールして表示する。このため、表の表示は、高速操作が可能になった。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】 図13に示された図、あるいは特公平3-64901号公報に示された表処理装置は、表の編集、複写、移動等の内容の変更が簡単でしかも迅速にできるという利点がある。しかし、上記のものは、表示されている表に対する処理であって、複数の表にまたがる行や列に注目して見たり、あるいはこれらの部分の処理を行なうのが不便であった。

【0007】 また、特開昭63-52181号公報に示された表処理装置は、表示画面を複数に分割して異なる種類の表を複数のウインドウに表示するマルチウインドウシステムを採用することで、複数の異なる表を同時に見ながらそれぞれの表を処理できるようになっている。しかし、上記表処理装置において、たとえば1日に付き一つの表を要するような、多数の表にまたがる一連の表の特定箇所を見たい場合、ある日付の表における特定箇所を見た後に、異なる日付の表の同じ箇所を表示して見るためには、多くの処理を必要とした。従来例における表示処理装置には、複数の表を一括管理し、このうち一つの表をウインドウに表示する手段と、表示する表を切り替える手段とを具備しているものもある。しかし、従来の表示処理装置には、同時に複数の表を表示したり、あるいは複数の表にまたがった行または列を一つの表として表示することができなかった。

【0008】 本発明は、以上のような課題を解決するためのもので、複数の表を一括管理し、あたかも一つの三次元からなる表のように表示することにより、一連の操作を円滑に行なう対話性に優れた表計算装置を提供することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】 前記目的を達成するために、本発明の表計算装置は、行と列で定められる複数の

枠目を持つ表を表示画面（図1の106）上に表示し、前記枠目に入力されたデータに基づいて、表計算を行ない、関連する複数の表データを管理し、該複数の表データから指定された所望の表データと、該表データと関連する表データとを選択する表選択手段（図1の101、102、103）と、前記表選択手段（101、102、103）による選択結果に基づいて、所望の表の少なくとも一部と残された複数の表の行または列とを関連させて合成することにより三次元表示するための制御を行なう表示制御手段（図1の105）とから構成される。

【0010】

【作用】表選択手段は、関連する複数の表データを管理し、指定された表データと、該表データと関連する表データとを選択する。たとえば、作成されている型式が同一の複数の表データの中から指定された所望の表データが選択されると共に、残りの表データの内、指定された表の特定の行または列に対応する行または列のデータを選択することができる。表示制御手段は、表選択手段による選択結果に基づいて、少なくとも一部と残された複数の表、行、または列とを関連させて合成することにより三次元表示するための制御を行なう。たとえば、選択された表データに対応した表と、残された複数の表データのうちの特定の行または列とが一つの表として関連させて合成し、合成された表を表示画面上に表示するための制御を行なう。したがって、本発明は、選択された表と残された複数の表の特定の行または列が三次元のごとく一つの表として、表示画面に表示することができる。すなわち、一つの表に対する指定のみで、関連する別の表の行／列の内容を自動的に見ることができるので、複数の表間で関連する内容を簡単かつ迅速に把握することができる。

【0011】

【実施例】図1は本発明の一実施例を説明するための概念図である。図1において、表計算装置は、作成された表を後述の記憶手段104に書き込みあるいは読み出す処理を行なうと共に、表データの管理を行なう表管理手段101と、所望の表、あるいは特定の行または列の少なくとも一つを指定するキーボードあるいはマウスを含む表指定手段102と、当該表指定手段102によって指定された表、行または列を三次元表示する場合に指示するキーボードあるいはマウスを含む表示方法指示手段103と、作成された表たとえば、表A、表B、表C、表D・・・を記憶する記憶手段104と、前記表指定手段102によって指定された表、行または列等を二次元または三次元に表示するための制御を行なう表示制御手段105と、当該表示制御手段105によって表等を表示画面上に表示する表示手段106とから構成されている。

【0012】図2は本発明の一実施例で図1に示す概念

図を説明するための全体構成図である。中央処理装置201は、制御装置205と主記憶装置206とから構成されている。そして、上記制御装置205は、前記表管理手段101と、表指定手段102と、表示方法指示手段103と、表示制御手段105と、図1において図示されていない表計算手段以外に情報処理装置としての演算手段等とから構成されている。

【0013】また、主記憶装置206は、図1に示す記憶手段104を含むものである。さらに、図2に示すキーボード203とマウス204は、表指定手段102あるいは表示方法指定手段103に含まれる。上記構成の表計算装置において、利用者は、キーボード203およびマウス204によって、表示画面202を見ながら表、行、列の内の少なくとも一つの指定、あるいは表示方法の指示を行なうと、中央処理装置201の処理で、表の計算あるいは表、行、列の指定による組み換え等の処理が行なわれると共に、その処理結果が表示画面202に表示される。

【0014】関連する複数の表について、表示画面202上で表を指定する方法には、メニューによる表名の指定、ボタンで次の表、前の表の指定、また、表示画面に文字を記述するマクロ命令によるプログラム的な指定等がある。なお、一つの表に注目して表示する場合は、表示方法指示手段103による指示を行なわない。すなわち、表示方法指示手段103によって、表示方法を指示しない場合は、選択された表のみが表示画面202に表示される。図3ないし図5は本実施例における表の指定方法を説明するための図である。図3は本実施例におけるメニューによる表の選択方法を説明するための図である。ここでは、メニューに関連する複数の表の名前の一覧が表示されるものとする。メニューが表示画面202に表示される（ステップ31）。次に、利用者は、表示されたメニューの中から表指定手段102によって所望の表名を指定する（ステップ32）。指定された表名の位置情報により、表管理手段101が記憶手段104から指定された表データを選択し、表示制御手段105に送る。この選択された表は、表示制御手段105によって、表示画面202上に表示される（ステップ33）。

【0015】図4は本実施例におけるボタンを使用した表の選択方法を説明するための図である。ここでは、ボタンには「前の表」および「次の表」を意味するものが二種類あり、ボタンの押下により、関連する複数の表の名前が前後に順次表示されるものとする。前記と同様に、表計算の開始に伴い、表と共にボタンが表示画面202上に表示される（ステップ41）。次に、表指定手段102は、利用者の押したボタンが次の表であるか否かを調べる（ステップ42）。表指定手段102は、前記ボタンが次の表を指定していると判断した場合、次の表名が獲得される（ステップ43）。表指定手段102は、利用者の押したボタンが次の表を指定していないと

判断した場合、前の表か否かを調べる（ステップ45）。表指定手段102は、前記ボタンが前の表であると判断した場合、前の表名を獲得する（ステップ46）。表指定手段102は、前記ボタンが前の表でもない場合、処理を終了させる。表指定手段102は、獲得された表名の表を選択し、表示画面202に表示する（ステップ44）。

【0016】図5は本実施例におけるマクロ命令を使用した表の選択方法を説明するための図である。コマンドを入力する領域が表示画面202に表示される。次に、利用者は、表示画面202に表示されている前記領域にコマンドを入力する。表指定手段102は、前記コマンドの内容を解析する（ステップ51）。利用者は、表指定手段102によって、表示画面202の表名指定部分に表名を入力する（ステップ52）。また、利用者の表名の指定によって、表指定手段102は、指定された表を選択して、表示画面202に表示する（ステップ53）。以上のように、表の選択は、メニュー、ボタン、あるいはマクロ命令によって行なわれる。

【0017】図6は本実施例を説明するためのもので、複数の表を積み重ねた状態において、その中から所望の表と残された複数の表にまたがる行または列を表示する場合の表示方法の指定を説明するための概念図である。図6において、斜視図の底面を含む面上に重ねられている表を水平に抜き出したと仮定した場合、複数の表にまたがる行または列に注目してそれらを抜き出して垂直（紙面と平行）に合成したと仮定した場合の表の四隅に符号を付したものを示す。たとえば、積み重ねられた複数の表の中から図6に示す符号61、62、63、64で囲まれた部分の表を作成する。この表が見える方向を本明細書において、「視線方向表の手前から」と表現する。また、積み重ねられた表で、たとえば符号65、66、67、68、あるいは69、70、71、72によって囲まれている表を真上から見る場合、本明細書において、「視線方向表の上面から」と表現する。さらに、積み重ねられた表で、たとえば符号65、66、71、70、あるいは67、68、69、72によって囲まれている表を横方向から見る場合、本明細書において、「視線方向表の右側から」と表現する。

【0018】また、特定の行に注目して、積み重ねられた複数の表の行を全て抜き出したと仮定して合成した表、あるいは特定の列に注目して、積み重ねられた複数の表の列を全て抜き出したと仮定して合成した表にすることができる。本実施例は、前記「視線方向表の手前から」、「視線方向表の上面から」、「視線方向表の右側から」が表の表示方法である。そして、表の指定と表の表示方法との指示によって、指定された表と残りの複数の表の行または列が関連して一つに組み合わされた表として表示画面に表示される。

【0019】図7ないし図11を参照して、積み重ねら

れた表の特定部分を抜き出して表示する表示方法をさらに詳細に説明する。図7は複数の表を積み重ねて上から見た場合の概念図である。図8ないし図11はそれぞれ特定の行、特定の列、特定の表と行、特定の表と列に注目して抜き出されて合成された表の表示画面を示す。図7において、たとえば表名「1989年度」701ないし「1991年度」703が積み重ねられている。そして、表指定手段102によって、たとえば表名を「1989年度」と指定し、表示方法指示手段103によって、表示方法を「視線方向表の上面から」と指示した場合、「1989年度」の表704が表示画面202に表示される。この場合、「1990年度」702および「1991年度」703の表は、「1989年度」701の表の下に隠れて利用者に見えない。

【0020】次に、各年度における表の行に注目して、表指定手段102によって、たとえば「は」行を指定すると共に、表示方法指示手段103によって「視線方向表の手前から」を指示すると、図8に示すような表801が表示画面202に表示される。すなわち、表題が「は」で、この行に関する各列に対応した1989年度から1991年度までの表801が表示画面202に表示される。同じく、各年度における列に注目して、表指定手段102によって、たとえば「C」列を指定すると共に、表示方法指示手段103によって「視線方向表の右側から」を指示すると、図9に示すような表901が表示画面202に表示される。すなわち、表題が「C」で、この列に関する各行に対応した1989年度から1991年度までの表901が表示画面202に表示される。なお、図8および図9における網かけは、指定された表で、網かけのない部分は、前記表に関連する残された表における表データを合成したものである。

【0021】図10に示す表は、1989年度という表名と「は」行との指定が行なわれ、かつ表示方法に「視線方向表の手前から」を指示した場合である。すなわち、1989年度の表全てと、当該表以外の複数の表における「は」行に対応した各列のデータが抜き出されて一つの表1001になっている。同様に、図11に示す表は、1989年度という表名と「C」列との指定が行なわれ、かつ表示方法に「視線方向表の右側から」を指示した場合である。すなわち、1989年度の表全てと、当該表以外の複数の表における「C」列に対応した各行のデータが抜き出されて一つの表1101になっている。

【0022】図12は本実施例の表計算装置における処理のフローチャートを示す。図12において、利用者は、表指定手段102または表示方法指示手段103（図1参照）によって、特定の表の指定と、表示方法を指示する（ステップ1201）。表示制御手段105は、表の表示方法が「視線方向表の上面から」であるか否かを調べる（ステップ1202）。表示制御手段10

5は、ステップ1202において、表の表示方法が「視線方向表の上面から」であると判断した場合、表管理手段101および表指定手段102によって選択されている表のみを表示画面202に表示する（ステップ1203）。たとえば、「1989年度」という表名が指定されると、表示画面202には、図7に示す表701が表示される。

【0023】表示制御手段105は、ステップ1202において、表の表示方法が「視線方向表の上面から」でないと判断した場合、表の表示方法が「視線方向表の手前から」であるか否かを調べる（ステップ1204）。ステップ1204において、表示制御手段105は、表の表示方法が「視線方向表の手前から」であると判断した場合、次に、特定の行が選択されているか否かを調べる（ステップ1205）。

【0024】表示制御手段105は、表管理手段101および表指定手段102によって、特定の行が選択されていないと判断した場合、複数の表の最下行である

「は」の行を全て抜き出す（ステップ1206）。ステップ1205において、表示制御手段105は、行が選択されていると判断した場合、選択された行のデータについて、列名を元の表のまま、行名に表のラベルを追加した表を作成する（ステップ1207）。表示制御手段105は、指定されている特定の表と、「最下行」または指定された行を組み合わせるための表示制御を行なう（ステップ1208）。以上のようにして組み合わされた表は、表示制御手段105によって表示画面202に表示するための処理が行なわれる（ステップ1209）。たとえば、表の指定が「1989年度」と「は行」で、表の表示方法が「視線方向表の手前から」である場合、図10に示す表1001が表示画面202に表示される。

【0025】ステップ1204において、表の表示方法が「視線方向表の手前から」でないと表示制御手段105によって判断された場合、表示方法は、「視線方向表の右側から」となる。そして、表管理手段101は、特定の列が選択されているか否かを調べる（ステップ1210）。表管理手段101は、表指定手段102において、特定の列が選択されていないと判断した場合、複数の表の最右列である「C」の列を全て抜き出す（ステップ1211）。ステップ1210において、表管理手段101は、列が選択されていると判断した場合、選択された列のデータについて、行名を元の表のまま、列名に表のラベルを追加した表を作成する（ステップ1212）。

【0026】以下、表の組み合わせと表示は、前記と同様にステップ1208およびステップ1209の処理が行なわれる。たとえば、表の指定が「1989年度」と「C列」で、表の表示方法が「視線方向表の右側から」である場合、図11に示す表1101が表示画面202

に表示される。以上のように、本実施例によれば、行および列から構成される複数の表において、表、行、列の内の少なくとも一つの指定と、表示方法の指示とによって、行または列に注目した表、あるいは選択された表と残りの複数の表における特定の行または列が組み合わされた一つの表が作成されて、表示画面に三次元表示される。したがって、複数の表を一括管理し、あたかも一つの三次元からなる表のように表示することにより、一連の操作を円滑に行なう対話性に優れた表計算装置を提供することができる。以上、本実施例を詳述したが、前記本実施例に限定されるものではない。そして、特許請求の範囲に記載された本発明を逸脱することができなければ、種々の設計変更を行うことが可能である。上記実施例では、表示方法指示手段103で指定された三次元モードで三次元表示をしていたが、表示制御手段105に予め特定の三次元モードを設定しておき、その設定されたモードで三次元表示を行なってもよいことは明らかである。また、たとえば、本発明は、表の枚数、行または列の数、あるいは枠目のデータに限定されない。さらに、本発明は、表示方法の指示において使用した「視線方向表の上面から」、「視線方向表の手前から」、「視線方向表の右側から」に限定されない。

【0027】

【発明の効果】以上詳細に説明したように、本発明によれば、所望の表に対する指定により、所望の表の少なくとも一部と、関連する残りの表の行または列とを合成して三次元表示するように構成したので、関連する内容を簡単かつ迅速に把握することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の一実施例を説明するための概念図である。

【図2】 本発明の一実施例で図1に示す概念図を説明するための全体構成図である。

【図3】 本実施例におけるメニューによる表の選択方法を説明するための図である。

【図4】 本実施例におけるボタンを使用した表の選択方法を説明するための図である。

【図5】 本実施例におけるマクロ命令を使用した表の選択方法を説明するための図である。

【図6】 本実施例を説明するためのもので、複数の表を積み重ねた状態において、その中から所望の表と残された複数の表にまたがる行または列を表示する場合の表示方法の指定を説明するための概念図である。

【図7】 本実施例の複数の表を積み重ねて上から見た場合の概念図である。

【図8】 本実施例における特定の行に注目して抜き出された表の表示画面を示す。

【図9】 本実施例における特定の列に注目して抜き出された表の表示画面を示す。

【図10】 本実施例における特定の表と行に注目して

抜き出された表の表示画面を示す。

【図11】 本実施例における特定の表と列に注目して抜き出された表の表示画面を示す。

【図12】 本実施例の表計算装置における処理のフローチャートを示す。

【図13】 一般的な表計算装置の表示画面を示すものである。

【符号の説明】

101 … 表管理手段

102 … 表指定手段

103 … 表示方法指示手段

104 … 記憶手段

105 … 表示制御手段

106 … 表示手段

201 … 中央処理装置

202 … 表示画面

203 … キーボード

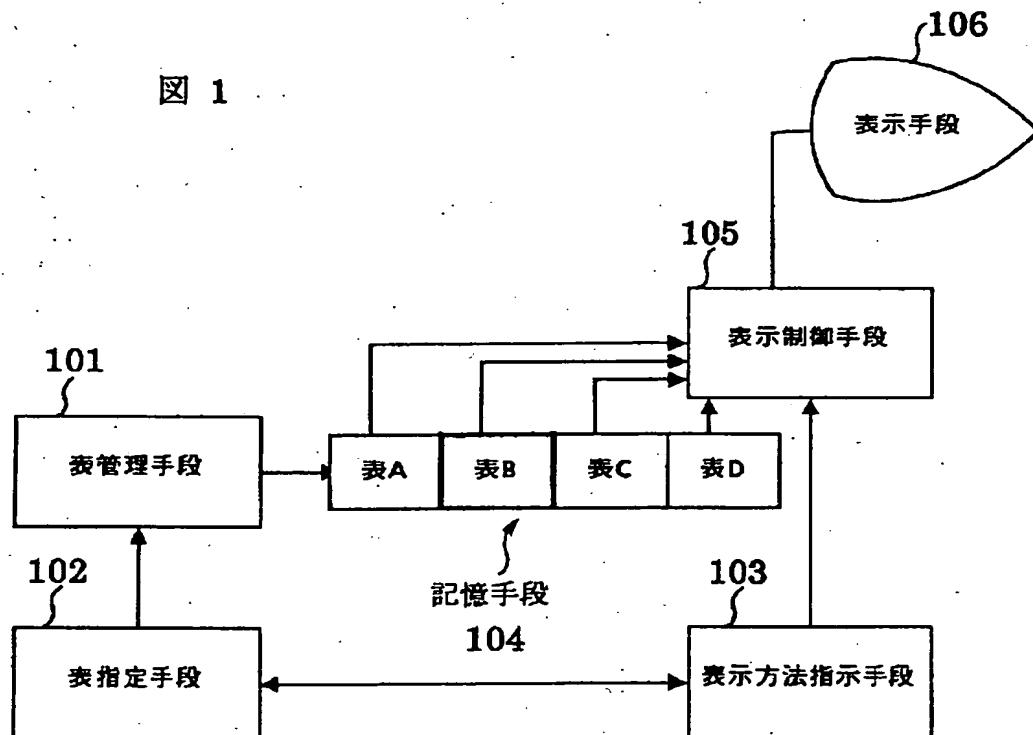
204 … マウス

205 … 制御装置

206 … 主記憶装置

【図1】

図 1



【図9】

図 9

901

C			
	い	ろ	は
1989	50	60	50
1990	40	70	100
1991	50	80	110

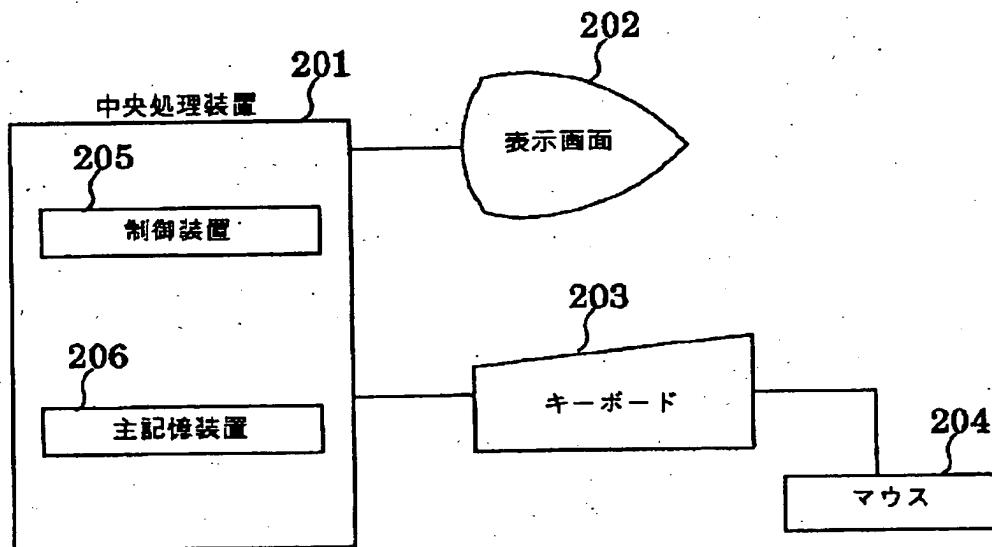
図 10

1001

1989 年度		A	B	C
	い	10	20	30
ろ	40	50	60	
1990	は	80	90	100
1991	は	90	100	110

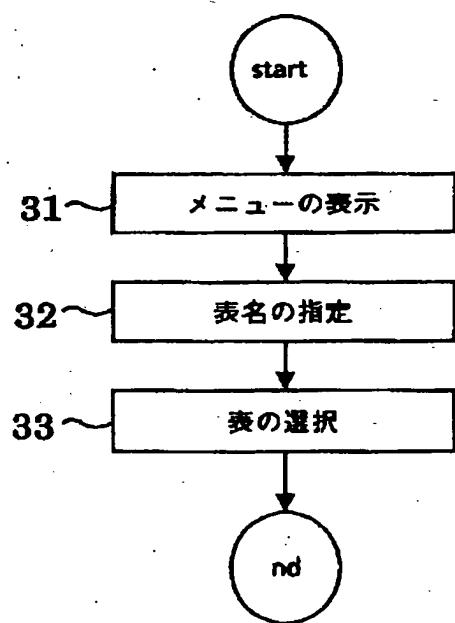
【図2】

図2



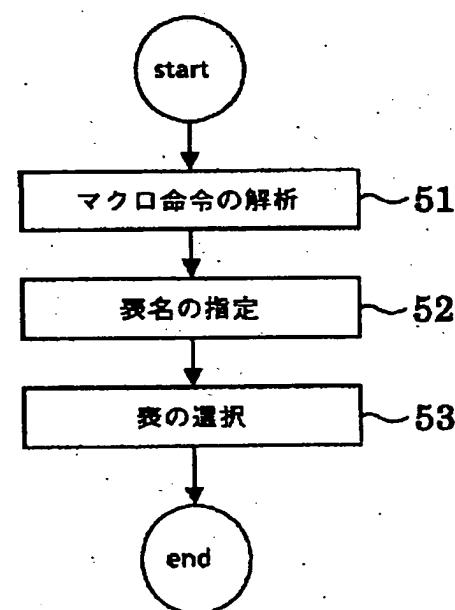
【図3】

図3



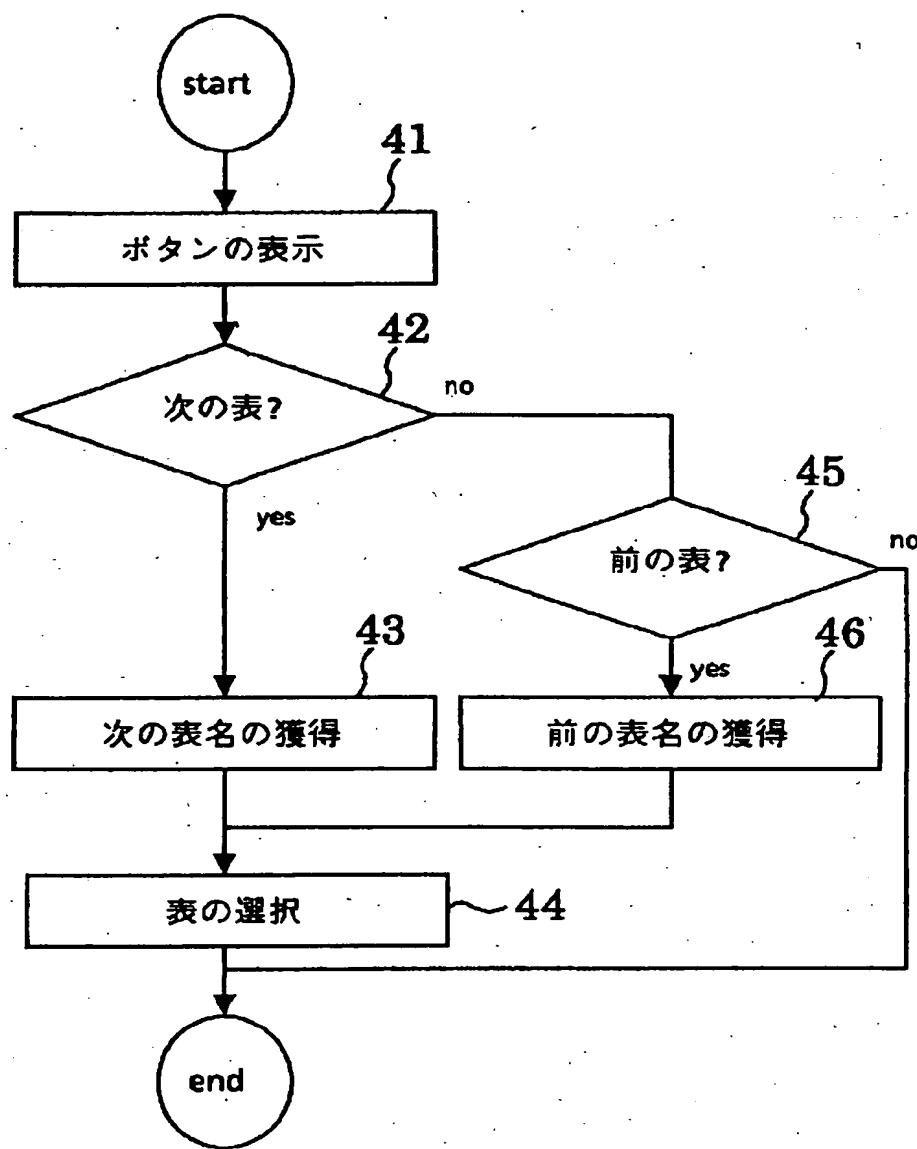
【図5】

図5



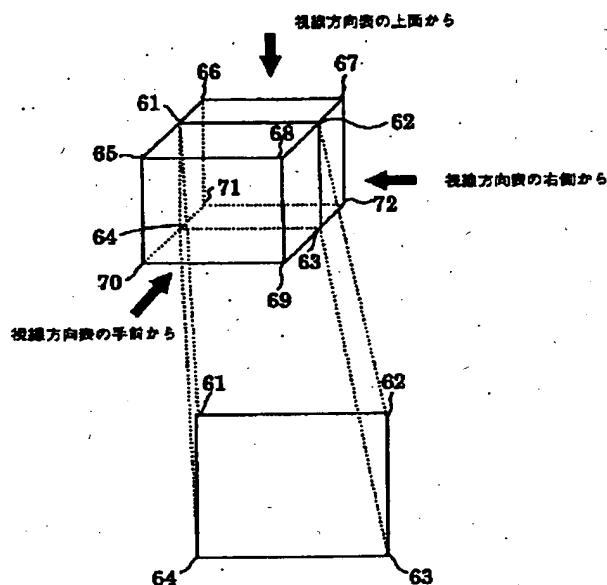
【図4】

図 4



【図6】

図 6



【図7】

図 7

Diagram showing three tables for the years 1989, 1990, and 1991. The tables are labeled 701, 702, and 703 respectively. A pointer from table 703 points to table 704.

1989年度			
	A	B	C
い	10	20	30
ろ	40	50	60
は	70	80	90

1990年度			
	A	B	C
い	20	30	40
ろ	50	60	70
は	80	90	100

1991年度			
	A	B	C
い	30	40	50
ろ	60	70	80
は	90	100	110

【図11】

図 11

【図8】

図 8

801

Table 801 showing data for the 'は' category across three years. The table is labeled 801 above the first column.

	は		
	A	B	C
1989	70	80	90
1990	80	90	100
1991	90	100	110

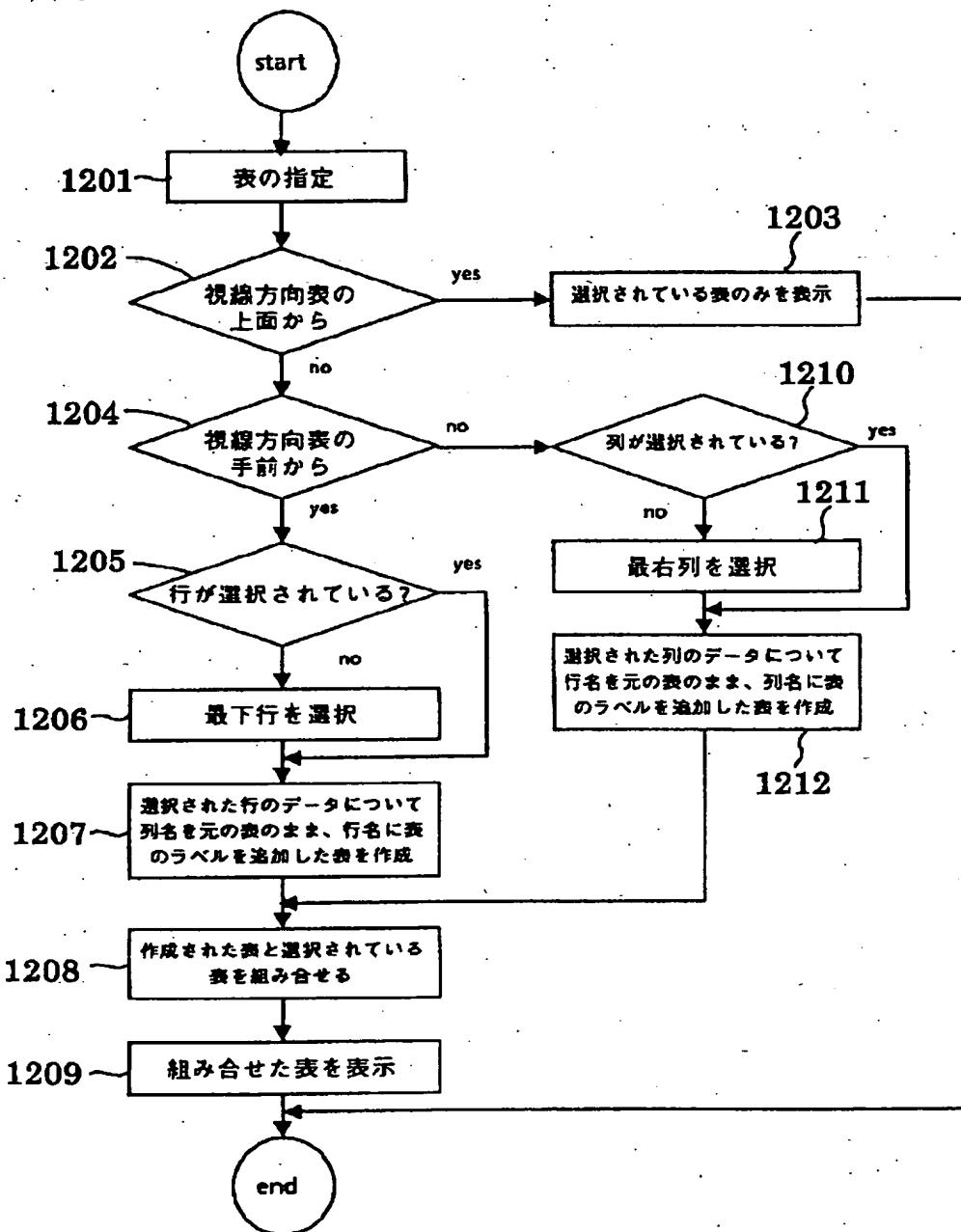
1101

Table 1101 showing data for the 'は' category across three years. The table is labeled 1101 above the first column.

1989年度			1990	1991	
	A	B	C	C	
い	10	20		40	50
ろ	40	50		70	80
は	70	80		100	110

【図12】

図12



【図13】

図13

図13は、データ入力用の画面構成を示す。画面には、データ入力用のテーブルと、その下部に位置する操作パネルがある。

テーブルの構成要素は以下の通り：

- 1303行番号：左端の列番号
- 1304列番号：上部の行番号
- 1302列：列番号
- 1305項目：右端の列番号
- 1301行：左端の行番号

操作パネルの構成要素は以下の通り：

- 3@2 25
- 1307選択しているます目の番号
- 1308選択しているます目の値
- 1309コマンド
- 1306コマンド入力部

操作パネルの各要素は、以下の通りに機能する：

- 3@2 25：選択しているます目の番号と値を表示する。
- 1307選択しているます目の番号：選択しているます目の番号を示す。
- 1308選択しているます目の値：選択しているます目の値を示す。
- 1309コマンド：コマンドを入力する。
- 1306コマンド入力部：コマンド入力部。

操作パネルの各要素は、以下の通りに機能する：

- 3@2 25：選択しているます目の番号と値を表示する。
- 1307選択しているます目の番号：選択しているます目の番号を示す。
- 1308選択しているます目の値：選択しているます目の値を示す。
- 1309コマンド：コマンドを入力する。
- 1306コマンド入力部：コマンド入力部。